

『臨床判断 気づくトレーニング』全3巻

”気づき”を確かな推論につなげるための思考過程を養う教材

監修：三浦友理子，奥裕美，松谷美和子

定価：各巻 32,000 円＋税 [5 巻セット 96,000 円＋税]

発行：株式会社東京サウンド・プロダクション／TEL：03-3405-3173



基礎教育では，長年「看護師としての思考」を育てることに力を注ぎ，なかでも，「看護過程」という科学的な問題解決思考を中心にした，個別的な看護実践につながる看護の方法を大切にしてきました。しかし，医療環境の変化のなか，「看護過程教育」は単なる思考のトレーニングに終わっているという指摘も挙がるようになってきました。この指摘については「看護過程教育」の本質ではなく，教授方法の問題であろうと思います。

しかし，このような「看護過程教育」のみで，「看護師としての思考」が育成できるかと，疑問を抱くようになってきました。具体的な課題は「臨床状況の変化」にともなう思考・判断の弱さです。看護過程は，網羅的に情報を収集し，立ち止まりアセスメントし，問題を特定します。したがって，「網羅的に情報に収集しないとアセスメントができない」「計画が立たないと看護ができない」という状況が生じてきます。「その場の状況や患者の変化に気づく能力」「網羅的ではなく，必要な情報を収集する能力」「何をすべきか推論する能力」，このような臨床的な思考の育成が，今の基礎教育に欠けているのではないかと思います。患者の病状が変化して計画が立たなくても，実践が求められる場面は多々あります。それに対応する教育をこれまで，卒後教育に任せていたように思います。

“気づき”から始まる看護実践，これまで，気づ

くには「経験知」や「専門的知識」が必要で，それらが不足する看護学生に“気づき”を期待することは難しいと思っていました。しかし，今回『気づくトレーニング』の映像を見て，場面での発問，振り返り，看護師の語りなど，その指導力で，気づく力を育成できると確信を得ました。

本映像教材は，基礎看護学実習編，臨地実習編，新人看護師編の3巻で構成されており，学習の時期に合わせて，臨地実習に先立って，あるいは臨地実習での経験の振り返りにも使える場面がそれぞれ3場面ずつ収録されています。基礎看護学実習編においては，私も見落としていたところがありました。映像ですから，患者の表情や言動を読み取ることから，“気づき”が始まります。気づきを確かなものにするために，どんな情報を収集するか，ここは知識が必要です。ていねいな解説がその思考を導いてくれます。患者の表情や言動に関心を寄せ，何かに気づくこと，そして，“気づき”を確かな推論につなげるために必要な情報を収集する，その重要性和具体的な思考過程を示唆してくれます。本映像は臨床判断につながる“気づき”を育てて，看護師として何を行うべきかを考えさせてくれます。

看護過程教育を補完する臨床判断につながるものとして，これからの看護基礎教育に積極的に導入していきたいと思います。